

Pick up !

Vol. 1 6

輝く男性の家事・子育て体験記

2ヵ月の育児休業を取得して

公務員 N. A

私は、第一子が生まれて1ヵ月を迎えた頃から2ヵ月間育児休業を取得しました。先輩方の子育て体験記から男性でも育休の取得が出来ることを知り、自分も子どもが生まれてから取得し、積極的に子育てをしたいと思っていました。

そのことについて、職場と妻に相談したところ、職場のみなさんは快く受け入れてくださり、妻も喜んでくれました。

最初の1ヵ月は、何時にどのように寝かしつけたらいいのか、何時に起こしたらいいのか、お昼寝の場所や時間はどうするか、お風呂は何時にどのように入れるか、などの生活リズムをつかむことであつという間に過ぎていきました。

育休生活では主に、洗濯、掃除などの家事のほか、おむつ交換、ミルクをあげること、お風呂、寝かしつけの育児を行いました。特に洗濯は、夫婦と子どものものとは別々に行っていたため、量が多く、洗濯機を常に回していても追いつかないほどで、体力を使う作業でした。



育休中、特に印象に残っていることは、ベビーマッサージ講習に行ったことです。ベビーマッサージを行う前は、私の顔を見ただけで泣いてしまう、いわゆるパパ見知りの状態でしたが、ベビーマッサージをとおして触れ合いが増えると、安心するようになったのか泣くことがなくなりました。

育児は初めてのことばかりで、心配事は尽きませんでした。平日の日中に動くことが出来たため、不安に思うことがあればすぐに子育て支援センターや小児科に行き、相談することが出来ました。夫婦一緒に、気になっていることを相談することで、ともに成長できた気がしてうれしかったです。

また、新型コロナウイルス感染症の感染対策にもつながったと思います。乳児はマスクが出来ないため、買い物など短時間であっても人混みに連れて行きたくないと思っていました。外出はなるべくどちらか一人が行き、一人は家で育児をするようにしていました。

育休の取得について、育児を経験した女性から、理解があつて素晴らしい！と褒められることがよくありました。また、自分のときはそういう制度がなく、とても苦勞したと聞きました。

実際、夫婦二人つきっきりで子育てをしましたが、子育てに慣れるまでの期間はやはり大変でしたし、子育て以外にもお宮参り、初節句などのイベント事もありました。育休を取得していなければ、日中これらの育児や準備を妻一人が担うことになり、体力的にも精神的にも負担が大きかったと思います。

イクメンという言葉が少し前に流行りましたが、最近は耳にすることが減ったように思います。男性が育児をすることが当然となり、わざわざ使う必要がなくなったのだと思います。

今は男性の長期育児休業は珍しいですが、それも普遍的なことになれば、より男女共同参画社会の実現につながっていくと思います。



私は、育休を取得したことで、2ヵ月間毎日子どもと触れ合うことができました。最初は、抱っこをすることさえも落としてしまわないか心配で敬遠していましたが、接していく中でそういった不安はなくなり、触れ合うことが楽しくなりました。

振り返ってみると、私たち親子にとってこの育休は、親が子どもに慣れる、子どもが親に慣れるための期間としてとても大切なものでした。私の顔を見て泣いていた我が子も今では、仕事から帰宅すると笑顔で出迎えてくれます。それが仕事へのモチベーションとなっています。

